

2002年度新入学生の情報機器の利用状況調査

学習院大学計算機センター 城 所 弘 泰

はじめに

近年、新入生のパソコン操作等に関するレベルが著しく向上している。そこで学生の情報機器の利用状況を把握するために、2000年度より新入生を対象に一般生活における情報機器の浸透度や情報技術の活用度について調査を行っている。ここでは2002年度の調査結果、および過去3年間の推移について紹介する。

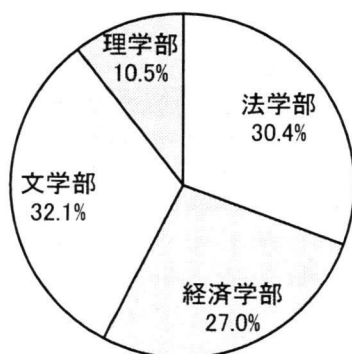
アンケートは本学の情報リテラシー科目「初等情報処理1」履修者を対象に行った。この授業は一部の学科を除いて必修扱いではないが、1年生のほぼ100%の学生が履修しているので、調査対象は事実上1年生全員と見ることができる。調査は2002年6月に行い、有効回答者数は1341名であった。

回答者属性

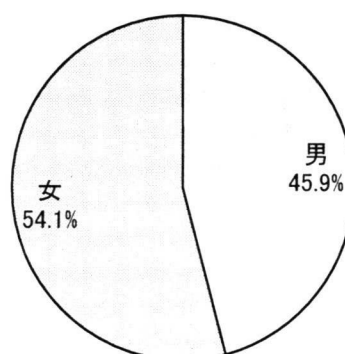
本学は、法・経済・文・理学部の4学部から構成されているが、回答者の内訳は以下のとおりである。また性別は以下のとおりである。

調査は1年生を対象に行ったが、年齢は20歳以下が97.1%であり25歳以上は0.01%であった。

回答者の学部



回答者の性別

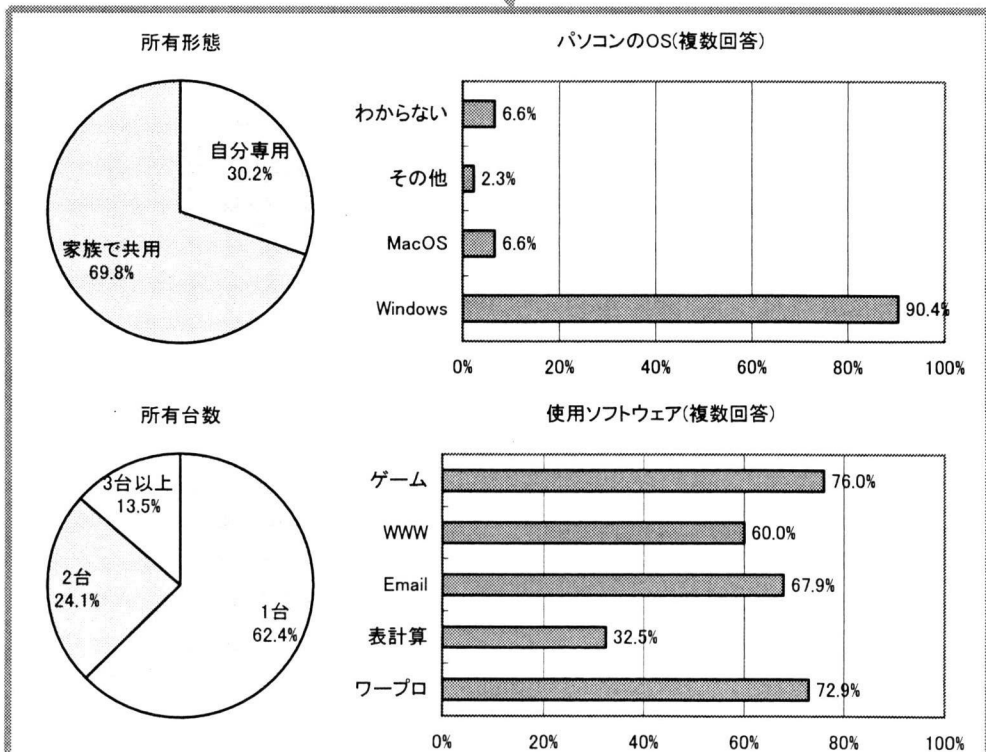
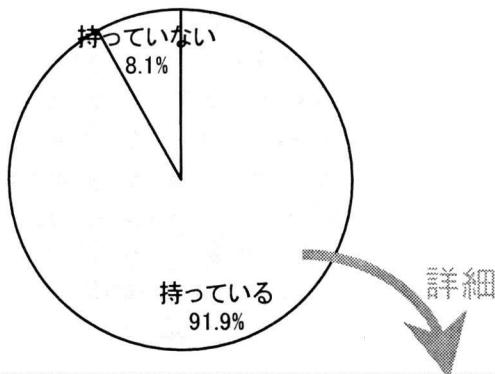


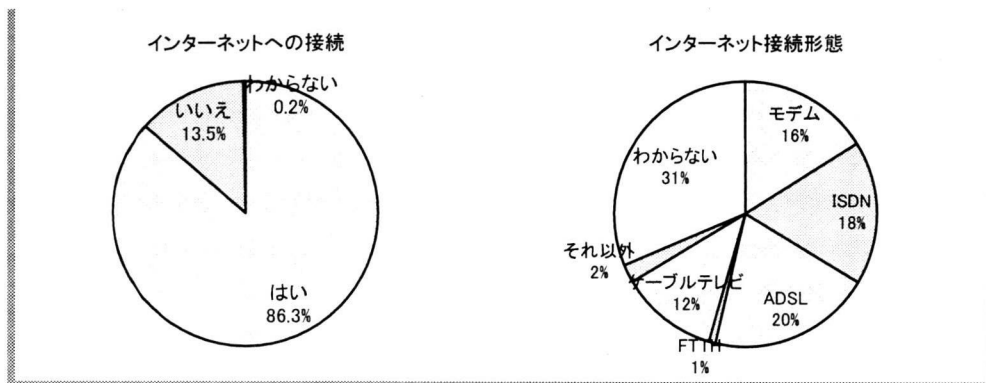
自宅でのパソコン所有

自宅（自宅外通学者は実家を含む）でのパソコンの有無に関しては以下のとおりであり、91.9%の家庭にパソコンがあることがわかる。

所有者のパソコンについて詳細を見ると、所有形態については、今日では学生個人が自分のためにパソコンを購入するのではなく、家族で共用しており、複数台所有している家庭も多い。パソコンOSに関しては圧倒的にMicrosoft Windowsが主流を占めている。インターネットも普及している。パソコン所有者の86.3%がインターネットに接続しており、接続形態も多岐のわたっている。

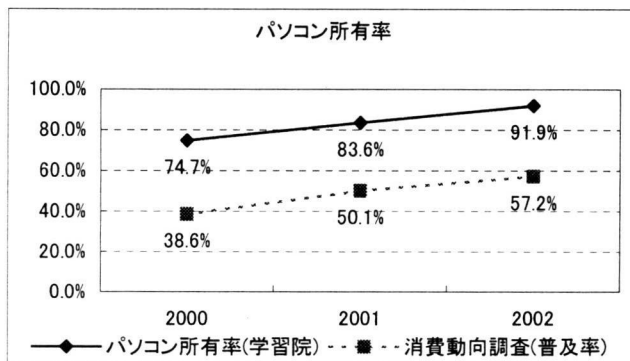
パソコンの所有



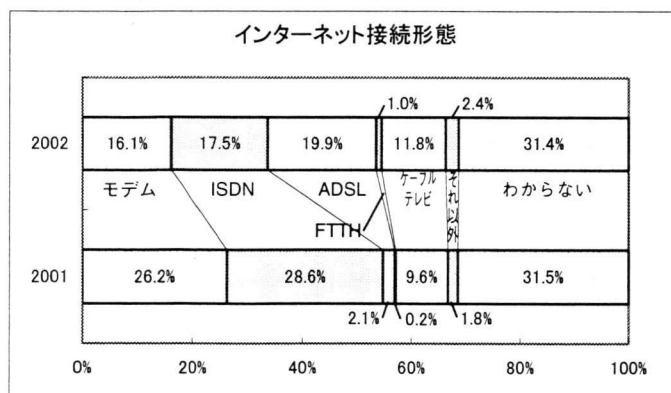


この調査は2000年度から行っており、今回で3回目だが、パソコン所有率の推移は下のようになる。ここ数年で所有率が大きく伸びていることがわかる。一般社会との比較では、消費動向調査（普及率）^[1]によると家庭へのパソコン普及率は2000年3月において38.6%，2001年3月において50.1%，2002年3月において57.2%である。

学習院大学での調査とでは明らかな差があるが、親の年齢層（すなわち収入）や、子供が大学に進学したという家庭環境を勘案すれば、この差は妥当であると思われる。



今回の調査では、パソコン所有者の86.3%がインターネットへ接続できる環境にあるが、その接続形態を昨年度の調査と比較すると下のようになる。モデムやISDNでの接続が減少し、ADSLやFTTHでの接続が増加しており、ブロードバンドが急速に普及していることが裏付けられる。



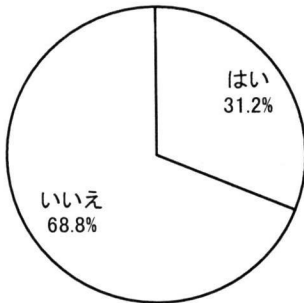
高校でのパソコン授業

高校でパソコンの授業を受講していた学生は31.2%であった。現時点ではパソコン授業が行われている高校は過半数に達していない。

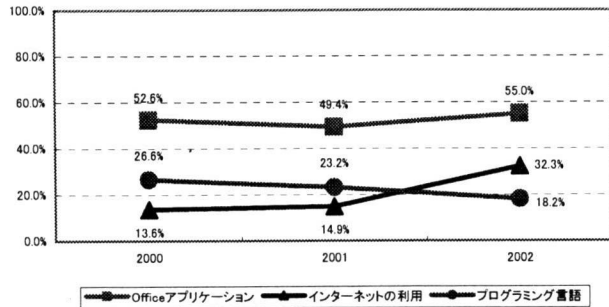
その授業内容の年次変化について見てみると、一昔前はパソコン授業といえばBASIC等のプログラミング言語であったが、それは年々減少している。しかしワープロ等のOfficeアプリケーションが中心になっているとはいえない。インターネットの利用は、昨年度までの調査では低かったが今年になって急増している。

これをみると、大学と比べると充実した内容の授業が行われているとはいえないが、今後は、カリキュラムの改定により、この状況は大きく変わると予想される。

高校でのパソコン授業



使用ソフトウェア

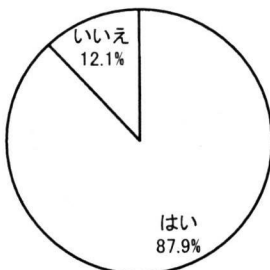


インターネットの利用

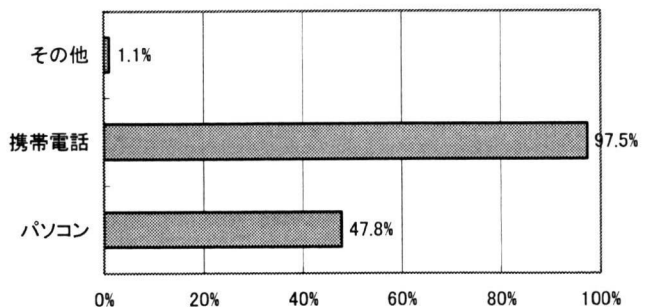
インターネットの代表的な機能である電子メール(Email)とWorld Wide Web(WWW)について、その利用状況を調査した。

Emailについては87.9%の学生が利用している。Emailが普及している要因としては、Emailを利用する手段を見れば明らかのように、パソコンの普及のみならず、携帯電話が広く普及しているのが要因となっている。(携帯電話の所有率については後述する。)

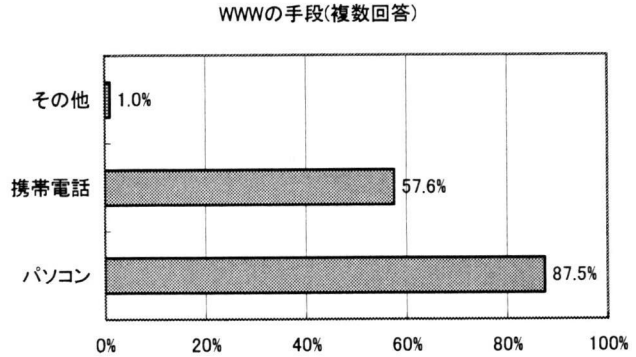
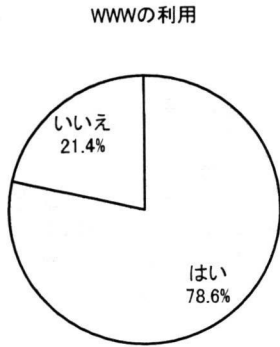
Emailの利用



Emailの手段(複数回答)

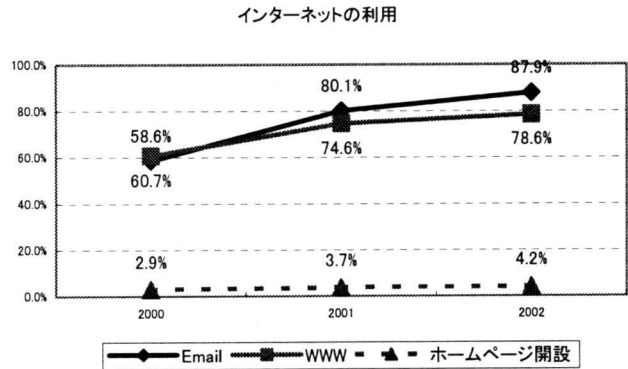


WWWについては78.6%の学生が利用している。WWWに関しては携帯電話での利用が意外と低いことがわかる。



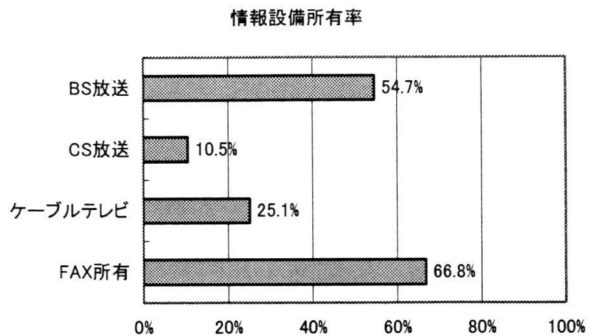
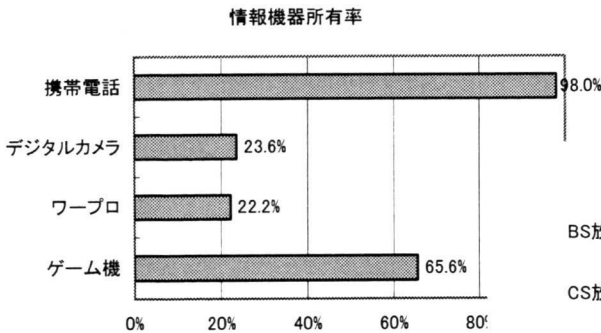
過去3年間のインターネットの利用率の推移は次のようになる。EmailやWWWの利用が大幅に伸びており、大多数の学生が利用しているといえる。

しかし、WWWに関しては閲覧しているだけで、個人でホームページを開いている学生はごく少数に限られている。



情報機器所有率

家庭での主な情報機器・設備については以下のとおりである。



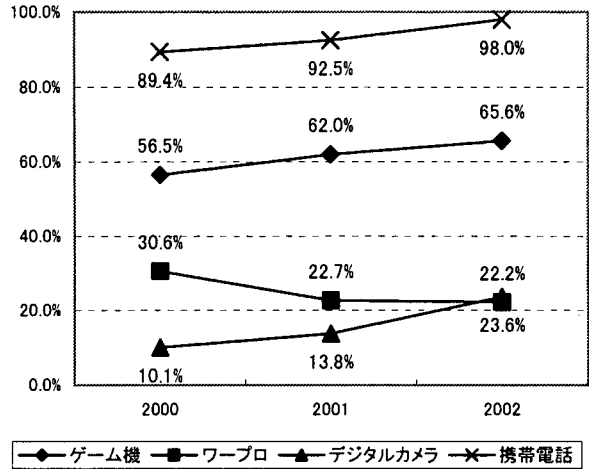
この中で注目する点としては次のことがある。

携帯電話の所有率は年々増加しており、今日ではほぼ全員が所有しているということができる。パソコンの普及に伴い、以前は情報機器の代表格であったワープロ専用機の所有率は年々減少している。

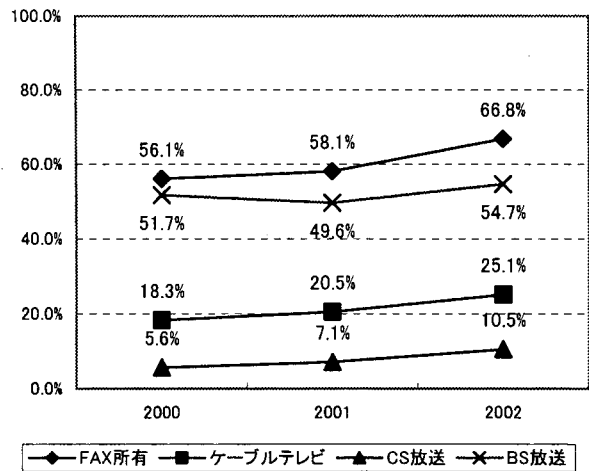
まとめ

今回の調査で、携帯電話をはじめとした情報機器の生活への浸透は年々進んでいることが裏付けられた。またブロードバンド回線の急速な普及により家庭のIT環境も大幅に変わっていくことが予測される。

情報機器所有率の推移



情報設備所有率の推移



参考文献

[1] 内閣府経済社会総合研究所 <http://www.cao.go.jp/>

但し2000年3月のデータは当時の経済企画庁の調査である。

[2] 城所 弘泰, 学生の情報機器の利用状況調査, 学習院大学計算機センター年報

Vol. 22, p200-205 2001

データ

調査対象：2002年度1年生

調査時期：2002年6月

回答者数：1341名

回答者属性

学部	法学部	408
	経済学部	362
	文学部	430
	理学部	141
年齢	18歳	751
	19歳	432
	20歳	119
	21歳以上	39
性別	男	615
	女	726

自宅でのパソコン所有

パソコンの所有	持っている	1232
	持っていない	109

所有形態	自分専用	372
	家族で共用	859
所有台数	1台	768
	2台	297
	3台以上	166
パソコンのOS(複数回答)	Windows	1114
	MacOS	81
	その他	28
	わからない	81
使用ソフトウェア(複数回答)	ワープロ	898
	表計算	400
	Email	837
	WWW	739
インターネット接続	ゲーム	936
	はい	1063
	いいえ	166
接続形態	わからない	3
	モデム	171
	ISDN	186
	ADSL	211
	FTTH	11
	ケーブルテレビ	125
	それ以外	25
わからない	333	

高校でのパソコン授業

パソコン授業	はい	418
	いいえ	923

使用ソフトウェア	Officeアプリケーション	230
	インターネットの利用	135
	プログラミング言語	76
	その他	34

インターネットの利用

Emailの利用	はい	1179
	いいえ	162

Emailの手段(複数回答)	パソコン	563
	携帯電話	1149
	その他	13
WWWの手段(複数回答)	パソコン	922
	携帯電話	607
	その他	11

WWWの利用	はい	1054
	いいえ	287

個人のホームページ開設	はい	56
	いいえ	1285

情報機器所有率

	持っている	持っていない	
ワープロ	298	1043	
ゲーム機	880	461	
携帯電話	1314	27	
デジタルカメラ	316	1025	
	ある	ない	わからない
BS放送	733	569	39
CS放送	141	1139	61
ケーブルテレビ	337	884	120
FAX所有	896	433	12